

11月23日は『お赤飯の日』

11月22日(金)

古来より日本の慶びの食事に、ハレの日(年中行事やお祭りなどの特別な日)の食卓に欠かせなかったお赤飯の歴史と伝統の継承を目的として、勤労感謝の日の11月23日に感謝の気持ちを込めて『お赤飯の日』が制定されました。この日は古くは赤飯の起源と言われている赤米等の五穀をその年の収穫に感謝を込めて奉納した日と言われています。

お赤飯のまめ知識

Q. なぜ、お赤飯をお祝いの席で食べるようになったの？

昔は赤という色には呪力(まじないの力)があつて、災いを避ける力があると信じられていました。魔除けの意味を込めて、祝いの席でふるまわれるようになったようです。

Q. いつ頃から食べられるようになったの？

平安中期の「枕草子」にあずき粥としてお赤飯の原形が書かれています。祝儀用となったのは室町時代で、江戸時代後期には一般庶民のハレの日の食卓にまで広まりました。

Q. どういう時に食べられていたの？

鎌倉時代後期の宮中の献立を記した「厨時類記」には、3月3日の上巳(じょうし)の節供〔ひな祭り〕、5月5日端午の節供、9月9日重陽(ちょうよう)の節供〔菊の節句〕など、季節の節目に食べた行事食だという記録があります。

民間で食べられるようになってからは、身近な祝い事の行事に食べられるようになったようです。地方によっては仏事〔法事〕にお赤飯を食べて凶を返して福とする縁起直しをするところもあるようです。

お赤飯にかかわる人生節目の行事

- ・ 出産祝い・誕生祝い・初節句
- ・ お食い初め(百日祝い)
- ・ 七五三
- ・ 入学・卒業祝い・就職祝い・成人祝い
- ・ 還暦祝い(60歳)など

